

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和4年(2022年) 3月発行

通算203号

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2022 4 月号

熊本地域医療センター 理 念

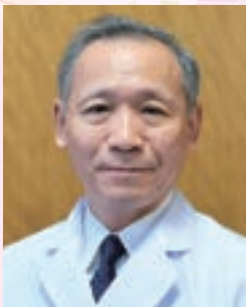
かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

新年度のご挨拶	P 1
退任挨拶	P 2~3
新入職員挨拶	P 3
血管造影装置の更新について	P 4

新年度のご挨拶

院長 ^{すぎた} 杉田 ^{ひろき} 裕樹



令和4年度が始まりました。昨年度は当センターの開院40周年記念という節目の年でしたが、残念ながらコロナ禍であるため祝賀会等のイベントを行うことはできず、皆さんと一緒にこれまでを振り返ることは出来ませんでした。しかし当センターがこれまで

行って参りました地域医療における貢献につきましては、地域の皆様や医師会員の先生方には十分理解して頂いていることと確信しております。また長きにわたり当センターを支持して頂いておりますことに、この場をお借りしまして御礼申し上げます。本年度も医師会員の先生方のバックアップ病院として高度な医療を提供することに努め、さらに2020年7月から開始しております新型コロナウイルス感染症患者の受け入れも引き続き行い、地域のお役に立ちたいと思います。

さて、去る2月26日熊本・上益城医療圏の地域医療構想調整会議が開かれました。2019年9月に突然厚生労働省から統廃合を検証すべき病院に当センターがリストアップされたことは、まだ記憶に新しいことかと思えます。これは地域医療構想において、公立病院や公的病院の役割について再検討し、2025年に必要な医療体制を構築するという計画で、急性期機能において診療実績が少ない病院や近隣に

機能が重複する病院が存在する場合にそのリストに挙げられたわけですが、当センターは地域医療支援病院に指定されていることから公的病院として扱われており、診療実績はあるものの、複数の公的大病院が近隣に存在するため(車で20分以内)、これに相当するとされたのでした。医療圏毎にリストアップされた病院の今後の在り方について検討されているのですが、当センターについての地域医療構想調整会議が去る2月26日に開かれました。

会議では、病院長(筆者)が①今後の当センターが担う役割(これまで同様に休日夜間急患センター等の救急やがん診療などの急性期疾患を中心とした医療)および②当院の単独病床機能再編計画(現在計画中の2025年ごろ予定の新病院竣工時に227床から204床へ減少)について説明しました後、審査委員による投票が行われ、ほぼ全会一致での合意となりました。当センターが開院以来地域医療に貢献して参りましたことが大変評価されており、審査員からはこれからはこれからも頑張ってもらいたいという意見が主でした。厚生労働省のリストに挙げられた際には、今後当センターがどうなるのだろうか心配された方々が少なからずおられたと思いますが、当センターは今後も現在の計画通りに事業を継続して参ることになっておりますのでご安心ください。

本年度は新病院建築計画を全職員が一丸となり進めて参りますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

退任挨拶



事務長

たけはら けいじ
竹原 恵慈

この度3月末をもちまして定年退職となりました。昭和59年4月に熊本市医師会に入職、医師会病院医事課に配属されたのち、その後医師会事務局へ、そして平成24年に再び医師会病院へ異動となり、平成27年10月より医師会病院事務長を拝命しました。この間、皆様方よりご支援ご指導を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

事務長在職中を振り返りますと、平成28年に熊本地震に見舞われましたことが心に残っております。当たり前の日常が一変して生活環境など何も

かもが経験したことのない状況に陥りました。病院の建物は大きな被害を受け診療制限をしなければならない状況でしたが、職員の方々の協力により入院患者さんに大きな被害等がなかったことが幸いでした。建物の修復もようやく終わり一段落着いたところで、今度は新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延し甚大な被害をもたらしました。コロナ禍の収束が見通せない中、入院患者さんの受け入れを行っている医師会病院の存在意義・外部評価は高まっています。

会員のための病院として基本理念である「かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざします。」の言葉に向かって熊本市の中核病院としてますます発展されますよう祈念いたします。長い間本当にありがとうございました。



皮膚科医長

いちはら あさこ
市原 麻子

2020年4月から2年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。皮膚科常勤の立ち上げということで、看護部、薬剤部、検査部、手術部には特に薬剤や物品の準備、皮膚科外来として使いやすい診察室の準備、スムーズな手術にご尽力いただきました。また皮膚科医1名ということで、手術で手が

足りない時は外科の先生方がお忙しい中ご協力下さって、自分では判断に迷う時も医局の先生方が気軽に相談に乗って下さり医局のチームワークの良さを感じました。アレルギー診療センターとしても、西先生、津村先生にご相談しながら、アトピー性皮膚炎教育入院や食物アレルギーの診療を行い、大変勉強になりました。大内師長との褥瘡回診も軌道に乗り、楽しく、充実した2年間を過ごさせていただきました。今後はクリニック勤務となりますが、皮膚科一般診療以外の新しい分野も勉強し、今まで学んだことと合わせて診療できればと思います。ありがとうございました。



消化器内科

ささき ひろたか
佐々木 大亮

2020年4月より2年間お世話になりました。初めは初期研修と大学での研修を終えたばかりで、通常の診療もままならない状況でしたが、皆様のご指導のおかげで何とかここまでやってくることができました。内視鏡についてはEMRやESDなどの治療内視鏡から、ERCPやEUSなどの胆膵内視鏡も多数行うことができました。症例も癌や急性期疾患な

ど多様な症例を経験することができました。まずは消化器内科の先生方の温かいご指導に感謝申し上げます。また他科の先生方も、外科の先生はじめ、いつでも快く相談に乗っていただき、何度も助けていただきました。本当に有難うございました。

看護部、検査部、事務の方々にも色々ご迷惑をおかけしたかと思いますが、いつも笑顔で対応頂き、皆様に支えられて日々の診療を行えていることを痛感しています。4月からは国立医療センターで勤務することになりました。近くなので今後も何かとお世話になることがあるかもしれませんが、その際はどうぞ宜しくお願いいたします。



小児科

すぎの **杉野** よしひこ **嘉彦**

昨年10月から半年間、小児科で勤務させていただきました。熊本地域医療センターでは他病院では経験のできない食物アレルギーの経口負荷試験や初めて経験する症例もあり非常に勉強になりました。他科の先生方にもコンサルトさせていただいた際にはお忙しい中でも快く高診いただき、本当にありがとうございました。協力医の先生方および開業医の先生方にも興味深い症例を数多くご紹介いただ

き、ありがとうございました。看護師、薬剤師、リハビリや事務などのスタッフの方々にも大変お世話になり、ありがとうございます。この半年は新型コロナウイルスの影響で小児感染症の児は減っており、その分一症例毎に考える時間を持つことができ、有意義な時間になりました。

4月からは熊本赤十字病院で勤務する予定としております。私自身、今年是小児科専門医試験を予定しており、専門医取得後は自分の専門とする分野を見つけ更に精進したいと考えております。また当院で勤務させていただく機会がございましたらよろしくお祈りいたします。半年間ありがとうございました。



乳腺外科

ひだか **日高** かおり **香織**

2020年4月より乳腺・内分泌外科として2年間という短い間でありましたが、週1回外来を担当させていただきました。各部署スタッフの方々には大変お世話になりました。私の中での熊本地域医療センターの印象は、スタッフ間での情報共有が行き届いているということ、またコメディカルスタッフとの隔たりなく互いに意見を出し合って診療を行っており、とても働きやすかったです。甲状腺疾患に関しては糖尿病代謝内科の先生方にもお世

話になり、それぞれの科で不足する部分を補いながら診療ができとても心強かったです。乳腺疾患では地域の開業医の先生方から、多くの患者さんをご紹介頂きました。大学病院と比べると乳癌患者の年齢層が高く、既往のために手術が困難な方が多かったように思えます。乳癌は女性の9人に1人が罹患すると言われております。今後高齢化とともに、更に乳癌患者さんが多くなることが予想され、今後もより一層開業医の先生方との連携が重要だと再認識しました。

地域医療センターで経験した事を忘れずに今後の診療にも活かして参りたいと思います。改めまして貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。

新入職員挨拶



本年1月4日に入職しました理学療法士の杉田雄史と申します。

熊本市出身ですが福岡の専門学校を卒業し、朝日野総合病院で4年間、杉村病院で8年間勤めておりました。そこでは運動器疾患、脳血管疾患の患者様を対象に急性期から回復期のリハビリテーション

に従事してきました。特に歩行動作等の基本動作能力回復に対して尽力しています。私がこれまで大切

リハビリテーション室 **すぎた** **杉田** **たかふみ** **雄史**

にしてきたことは、患者様の話に耳を傾け、何を希望されているかを理解することです。患者様が今何に困っているかを共有することで、信頼関係を築くようにしていました。プライベートでは社会人から始めたボルダリングを趣味にしています。

医療人として熊本地域医療センターで務められることを嬉しく思います。まだまだ不慣れな事も多く、皆さまにご迷惑をおかけすることも多いと思います。1日でも早く仕事を覚え、将来を担うような人材になれるよう精進いたします。どうぞよろしくお願い致します。

血管造影装置の更新について

循環器内科医長 **ひらた よしひろ**
平田 快紘

当院では、2003年に設置した血管造影装置を用いて冠動脈造影検査や冠動脈ステント留置術などの検査・治療を行っていましたが、近年血管造影装置の故障が相次ぎ、また修理に必要な機材の製造終了に伴い、メンテナンスが困難となっておりました。そのため新たな血管造影装置を導入することとし、2022年3月にSIEMENS社製の「Artis zee i TA」を導入致しました。

16bitの階調度を持つHDR(high Dynamic Range)フラットディテクタを搭載しており、グレースケールの階調が従来の4倍に向上しました。またその膨大な画像情報を再構築することで、よりコントラスト分解能の向上した3Dイメージを作成することができるようになりました。手技中にCアーム回転によるコーンビーム再構築技術を応用し、CTライクイメージを作成することも可能となりました。

近年、冠動脈ステントの改良に伴い、ステントストラットが薄くなることで、ステントの視認性が低下しております。今回導入した血管造影装置には、

心拍動の影響を最小限にし、ステントを強調することにより視認性を向上することができる機能が搭載されており、これらを用いることで、より正確な治療が行えるようになりました。

その他、循環器領域に限らず、動脈塞栓術に有用な血管内デバイスのガイド機能、透視下での穿刺ガイドを可能とする機能など、様々な最先端の機能を有しております。

これらの機能を最大限活用し、より安全・正確な検査・治療を心掛け、診療を行って参ります。もしも日常診療の中で循環器疾患の精査、治療が望ましい患者様などおられましたら、当院までご相談頂ければ幸いです。



Artis zee i TA

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2022年4月25日(月) 19:00~20:00

形式／ハイブリット方式 オンライン参加 or 会場参加

オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com (※1) まで

メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

(※1) 申し込みアドレス



※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。

人数制限によりご案内できない場合がございます。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告
『未定』

消化器内科 竹野 洋司 医師

②特別講義

『今さら聞けない頻脈の考え方とその治療
～上室性頻脈を中心に～』

CC 43：動悸

循環器内科 平井 信孝 医師

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら

☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします!

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y コロナ禍でも戦争中でも桜の花は心を和ませてくれます。杉田裕樹院長の挨拶で、直近の地域医療構想調整会議で当院の計画通りに事業を継続することが認められたことが報告されています。新年度を迎え、職員の気持ちにも弾みがつくと思います。

K 桜の開花も始まり、別れと出会いの季節となりました。退職される方々、大変お世話になりました。もっと、たくさんのお話を聞いていただきたかったです。新しく入職される方々、ようこそ、一緒に頑張りましょう! 私自身も初心に戻り、新たな気持ちで新年度を迎えます。

H 先月より「くまもと花博」というイベントが市内の各地で開催されており、昨年購入したカメラ片手に撮影に行こうと思っています。カメラは半年前に購入したものの、今まで撮影する機会がなかったため、少し使い方を学んで臨みます!